肩たたきに負けるな

三川・四山では職制を追及

希望退職締切りを二十六日に控え、会社は職制をはじめ、あらゆるルートから、さかんに肩たたきをはじめて乗り出している。ところが、この肩たたきが明るみに出て、去る二十一日係員詰所に呼ばれた。行つてみると湯田係長と木原係長がいる。首切り該当者になつているからという肩たたきであつた。

四山支部の中島遂さん（代議員・第一番仕繰工）は去る二十一日係員詰所に呼ばれた。行つてみると湯田係長と木原係長がいる。首切り該当者になつているからという肩たたきであつた。

このことを知つた分会では、翌日の繰込みどきに、両係長を繰込場に来て貰い、さつそく抗議をつづけたのである。

炭労指令ではいかなる退職をも拒否して闘うよう指令されており、これは当然職組にも指令されていることでもあり、職組組合員として、そういう指令無視をするとはもつての外だと追及がつづけられた。

主婦もつめかける

午前七時からつづけられた追及のため、すでに繰込んでいた一番方を除いて第一番は繰込まず、この報を聞いた主婦たちもぞくぞく繰込場につめかけ、繰込場はギツシリと人波で埋つた。

「何のためにそういうことをいつたのか」

「肩たたきの目的ではなかつた」

「首切りの話をして、首切りではなかつたとは通らない」

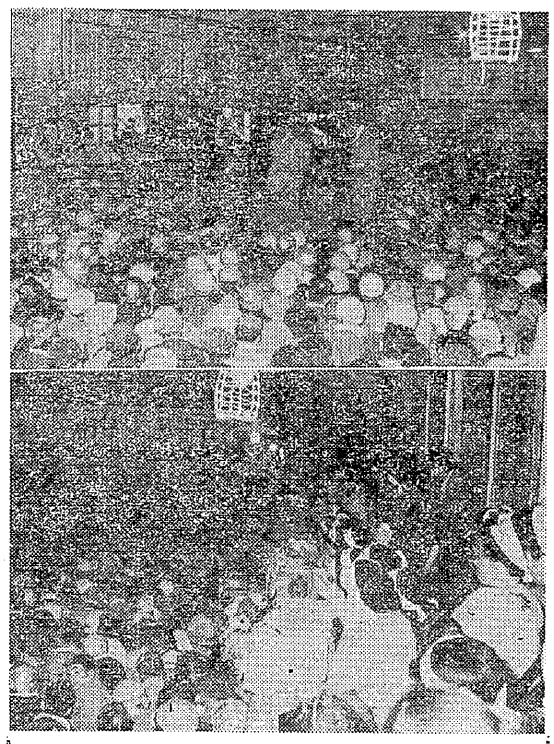
「知らせてあげてよいと思われる人には、知らせてやつた方がよいと思つた」

「知らせた方がよいということは知らせたいという気持ちがあることだ」

と、肩たたきではなかつたといい張るばかりである。たまりかねた中島さんは「貴方は昨日、他にも名前を教えてやつてもよいといつたでしよう。それでもなお、肩たたきでないということは言語道断だ」と怒つて発言していた。

悪かつたと謝る

このほか、勧告するという立場にないし、またもしやつても無駄です。とか、職組の一員として指令通りやつております、などなかなか肩たたきについての言明を避けていたが、二番方も繰込みを延ばして追及にはいるなど、追及はつぎつぎとつづけられていつた結果「鉱職共闘のなかで肩たたきしたのは悪かつた」と認めてあやまつた。また、職組の支部長も事態を心配して来て「こんどは注意する」という挨拶もあり、午後一時ごろ追及を終つた。



（上）四山繰込場での抗議
（下）主婦もかけつけた

知らせたかつた 呼出して勧告

一方、三川支部でもローダー分会の志岐さんが首脳係員に呼ばれて肩たたきをやられ、就職の世話までするかいと巧みにもちかけられてきた。

志岐さんは公傷のため休んでいたものだが、一カ月で私傷に切替えられ、そのまま現在も休んでいたのである。

それが二十一日に会社に呼び出された。呼び出したのが野尻首脳係員である。〃天月〃という飲食店に連れて行き、志岐さんが後四カ月で停年だから今やめると退職金なども多く、就職したい希望があれば何とか斡旋したいと持ちかけてきたのである。

家はカラツポ

そこで志岐さんが「あんたは肩たたきする気か。それなら私はローダ分会に長い間お世話になつているので、分会の人に相談しなければならないし、谷端支部長は私の弟だから彼にも相談したい」というと、テツキリ心諾するものだとばかりきめていたので、あわてて

それだけはやめてくれと、止めたがそれを振切つて志岐さんは帰つてきた。

これを知つたローダ分会では早速分会員を招集して、真相を聞くために野尻宅へ行くと、家はカラツポで家族はどこかに避難させていた。

翌日も分会員は手分けして野尻氏を捜しまわつた。

一方、執行部でも職組にたいするいきさつを話した結果、職組で責任もつて呼び話しをさせることになつた。

副長から確約とる

二十三日に野尻首脳係員を囲んでローダ分会員で繰込場で、追及しているが、運動時間について、昼間横

副長から確約とる

二十三日に野尻首脳係員を囲んでローダ分会員で繰込場で、追及しているが、運動時間について、昼間横

警官に寝込みをおそわれた私は七月中旬通産大臣が閣議で「石炭産業の企業整備について治安対策に万全を期してもらいたい」と発言したあの結論が、今日の私の逮捕だと、その間の結びつきを考えながら、逮捕状に目を通した。

そして朝食もお茶も飲まされずかりたてられるようにして社宅の真中で護送車にのせられた。それは私の誕生日、九月二十九日の五時すぎの出来ごとである。それから十月八日午後七時半までの二百二十九時間の、われわれの生活は文字通り屈辱の歴史であつた。両手に手錠を、あるいは鶏の餌をあたえるようにして扉の下の穴から食物を受取り、番号で呼ばれ、名前をいいすてにする横暴な警官や看守（その後で抗議もしたが）など、四六時中の監視の生活は終生忘れることはできない。

あのガチヤンと扉をしめられたときの気持といつたら、本当に頭にガーンとくる。拘置所の鉄格子と金網と板塀にかこまれた一坪半の生活は、限りなく淋しく、苦しい。

出所ご組合員の方から、よく「何が一番苦しかつたか」ときかれるが、運動時間について、昼間横臥できないことなどいろいろ不平不満もあつたが、一番嫌なことは人間が人間に監視されるということである。また、独房の中には収容者心得がはつてあり、その中には精神修養、反省が第一とかいては不当にもわれわれを逮捕し、さらに起訴したが、敵のねらいは、三井鉱山の背後には警察権力がついている、このことによつてわれわれを萎縮させ、思う存分に首切りをしようという魂胆である。うそはうそのようにいつたのでは効目がなく、うそは真の如くいわれている。

それは起訴状をみても判然としている。しかし真実は一つしかない、それはネツ造された事件、真実と虚偽の闘いであり、同時に勤評や安保改定阻止や民主的自由を守る闘いである。

逮捕から釈放まで組合員、主婦会員、個人から団体から、ひずかずの激励と見舞をいただいた。ある主婦会の有志の方々からは、拘置所内で寒くないようにと下着の上下を自宅まで届けていただいたまた未知の一組合員から、私が余りにもやせてかえつてきたとのことで、生みたての卵を持つてきて一日も早く元気になつて欲しいと激励された。

分割払い、遅払いで苦しい家計にも拘わらず、御出資いただいて労働者階級の限りない友情にいく度か熱い涙を流した。いま被疑者から被告人となつた私たちは、法廷での闘いが差迫つている。しかし、前にものべた通り、真実は一つであり、われわれは最後まで真実を守るために断固として闘いをすすめる決意である。

十日間の御支援を感謝し、今後の御協力をお願い致します。

＝感想＝

被疑者という名の十日間

三川西川米生

罪を犯した人はそういう意味で幸いであると思う。われわれには反省しようにも何も罪を犯していないから、反省することがない。これまた苦しいことだつた。官憲は不当にもわれわれを逮捕し、さらに起訴したが、敵のねらいは、三井鉱山の背後には警察権力がついている、このことによつてわれわれを萎縮させ、思う存分に首切りをしようという魂胆である。うそはうそのようにいつたのでは効目がなく、うそは真の如くいわれている。

それは起訴状をみても判然としている。しかし真実は一つしかない、それはネツ造された事件、真実と虚偽の闘いであり、同時に勤評や安保改定阻止や民主的自由を守る闘いである。

逮捕から釈放まで組合員、主婦会員、個人から団体から、ひずかずの激励と見舞をいただいた。ある主婦会の有志の方々からは、拘

こうして、三番方帰りの人たちも含めた追及に、午後八時肩たたきを撤回させて解散した。

東圧が激励デモ

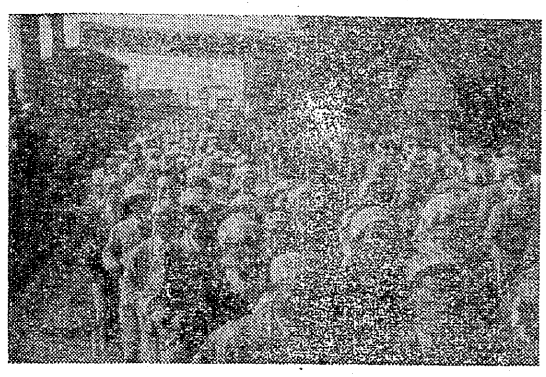
20日の時限ストで三鉱へ

総評第七次統一行動日の十月二十日、大牟田地区では一斉に職場大会や時限ストなどを行つた。

三鉱労組の二十四時間時限ストとして、三煉労組の三時間全面部分ストと、東圧労組の三時間ストと、またこのほか三池染料、三池合成、全電通大牟田分会、全逓大牟田支部、市教組、国鉄大牟田分会では職場大会をひらいたり、構内でデモを行つたりした。

東圧労組では午後一時から三時間の時限ストに突入したが、保安要員、夜勤者を除いた殆んどの組合員約千八百名が、時限ストに突入後三鉱労組本部へ激励を行つた。

不知火校の横で勢揃いした東圧の組合員は、鉱業塔で一斉にデモ行進にうつり、本部執行委員、書記



本部前をデモる東圧組合員

の拍手のなかに堂々と激励デモを行つた。

激励団を代表して東圧労組執行部が「私たちの中にも企業整備の合理化が出ています。企業合理化に対して闘う皆さんたちとともに、私たちもともに闘つて行きます。さいごまで弾圧に屈せず闘つてください」と激励の挨拶を送つた。

これに対して三鉱労組を代表して久保田副組合長が「皆さんの激励に感謝します。私たちもさいごまで闘いますから、変らぬご支援をお願いします」と挨拶を行つた。

東圧労組は、さきの四十三日ロツクアウトのときも、全員激励にかけつけてくれ支援をおくつてくれた。

政治局員街頭に

市民に闘争実態を訴う

政治局では十月二十一、二、三の三日間、街頭に出て対外情宣を行うとともに、ビラ配りをやり、市民に今回の闘争の実情を訴えて世論の闘争支援にたいする盛り上がりを行つた。

この対外情宣にはニュースカー「はたかぜ」を使用、おりから来牟中だつた田中稔男代議士も同乗して、車上から市民にマイクで呼びかけた。

これと併行して、政治局員が手に手にビラを持つて、通行人や情宣に耳をかたむけて聞きいる市民にビラを配つて回つた。

この宣伝は大牟田・荒尾の両市にまたがり、街頭や農村地区へも進出して、政治局員を動員した。

三川町での宣伝のときは、ある商店から女店員たちが仕事の手をやめて全員店頭に顔をそろえ、熱心に聞きいつていた。

こんど闘いが熾烈化するにつれていよいよ対外活動も活ぱつになさなければならないだろう。

政治局員の一人はこういつていた市民にたいする反響はたしかにあつたですね。場所によりけりですが、例えば宮町や上官町などでは、自転車をわざわざ停めて、熱心に聞いていました。

好評の放送劇

すみれ分会で放送

三川支部緑が丘すみれ地域分会では、いま〃黒い炎〃という自作自演の放送劇を、朝晩放送して好評をえている。

この放送劇は約三十分もの、もちろん現在の闘いからつくつたもので、肩たたきでヨロメキかける一組合員が、自分の考えの誤りを翻然と覚つて、闘いに立上つていくというストーリーである。

地域分会・主婦会が合同でつくりあげたもので、登場人物も一組合員、その妻、長男、長女の一家と金融の借金取り、同僚という多彩な顔振れである。

会社から帰つた一組合員は疲れたといつて、妻に酒を求めるが分割払いでそんなぜいたくは許されないと断わられる。そこへ借金とりが来て、利子でもよいから入れろといい、何なら許めた方がいまのうちならまとまつた金も入るし、それで精算したらと巧みに持ちかけられ、ついフラフラとなるが、同僚の説得で目覚めるという一幕である。

ドラマには音楽も豊富に取入れられており、上出来だとなかなかの評判をうけている。

いまでは、他分会からの借出しも申込まれているという、盛況ぶりである。

先日飛行機で会社ビラがまかれたが、そのときも機を外さず放送劇をかけるなど、くり返し放送されている。

分会では、こんど闘いの推移に応じて、テーマをとりあげ、つぎつぎと新らしいドラマをつくつていくと張切つている。

映画

【ものがたり】S県津田山市は平凡な地方の小都市である。活気のない炭坑と貧しい漁場の間を御なみが走り、山の麓には小学校がある。

新学年が始まつて、志野田ふみ子先生（香川京子）は五年三組を担任した。級には、いろんな子供がいる。意地悪な子、体の弱い子孤独そうな子も。だが、一日も早く彼らと仲よしにならなければ！初登校の日、ふみ子は早速、子供

教組の問題と正面から取組んだ問題小説の映画化

人間の壁

連の家を訪れてみた。

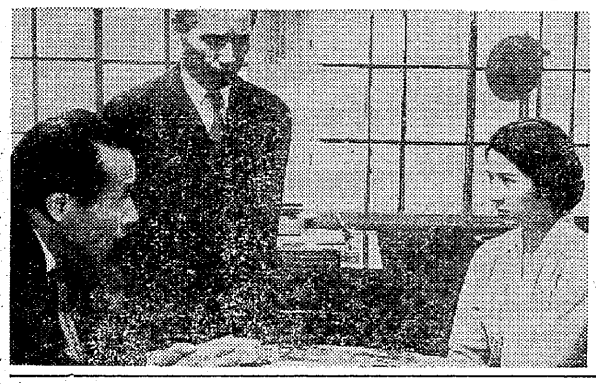
ふみ子は共稼ぎである。夫の健一郎（南原伸二）はS県教組の執行委員で、闘志にみちた活動家といわれていた。ーだが、実は卑劣な出世主義者であり、家庭では横暴な夫であつた。彼は妻や組合を利用して立身出世することも当然と思つている。

ある日、ふみ子は同僚の須藤先生（高橋とよ）と共に、突然、校長室へ呼ばれ、市の教育長から退職を勧告された。二人の共稼ぎを理由にして、それは半ば強迫じみた口ぶりであつた。だが、数度もないのに、なぜ退職しなければならないのか、ふみ子も須藤先生もわからなかつた。

ふみ子と須藤先生の退職勧告は組合を通じて正式に拒否されたが職場集会の重苦しい空気は、先生たちに差し迫つた現実をきびしく感じさせるものがあつた。

そうした情勢の中で、健一郎は県教組の低調な活動ぶりを指摘しその原因を委員長吉沢（永田靖）の軟弱な性格にあると非難した。役員改選が迫ると、彼は日頃から意見を共にしていた婦人部長庄司春子（沢村貞子）の組織力を頼みにして、委員長に立候補した。家庭も感情も捨て去つて選挙運動に狂奔する健一郎ー今は野心の鬼となつた彼は、ふみ子の眼はただ冷ややかるのみであつた。

投票日の除、二人の最後の時がきた。離婚という決定的な事実を残して、健一郎は家をとび出して行つた。

夫を失い、自信を失つたふみ子に暗い毎日が続いたが、子供たちへの愛情の中に辛うじて生きる支えを見つけた

（八日より大天地）